

【Yavor the Lightning】

説明

解説

■ 神殿

嵐の神殿。小神。

■ 称号、職能

大地を焦がす落雷、そして天を引き裂く“稲妻”の神。雷鳴の兄弟の一柱。“大いなる電光”。

■ 概略

両の手にはスピア「はらわたを焼き焦がすもの」、ジャヴェリン「木を焼き焦がすもの」を構え、そして手に携えなくても天より撃ち下ろせる「嵐のスピア」の合計三本の槍を持った戦士。元々は炎の部族の一員であり、過去にはジャグレクリアンドとともにウーマスと戦い、その首を落とし、ジャグレクリアンドがウーマスを殺す手助けもしている。

神々の戦いのさなか、オーランスがヤヴォールの頭を切り落とし、その力、すなわち三本の槍を奪い取り彼を虜囚としたが、エルマルが族長を務めている時、ステッドを守るのを手伝ったのでエルマルはヤヴォールを解放し、三本の槍をすべて返した。そしてオーランスが帰ってきた時、雷鳴の兄弟の一人として認められた。

オーランス四つの魔法の武器の一つ、稲妻の槍と同一の神格か。

オーランスのカルトとしてはひどく特殊なカルトであり、その信者の数は絶対的に少ない。

組織

■ 相、カルト

雷鳴轟かすオーランスの下位カルト。

参考文献

- ・『ゆりかご河』 p.137-138
- ・『Thunder Rebel』 p.216-217、243